

旅人がみた宮津・天橋立

—参詣、そして近代観光地へ—



展示の詳細は
コチラから

旅人たちの眼差しから紐解く、 「宮津」・「天橋立」の魅力

明治41年（1908）、ドイツ人作家ベルンハルト・ケラーマンとスイス人画家カール・ヴァルザーは宮津を訪れ、その美しい風景や豊かな文化に深く魅了されました。帰国後、二人は紀行文や絵画を通して宮津の魅力をヨーロッパへ紹介し、その記録は今日まで伝えられています。

宮津・天橋立は、古くから多くの旅人を迎えてきました。江戸時代には庶民の旅が盛んになり、歌に詠まれた名所を巡る旅や社寺参詣が広がると、天橋立や宮津城下町にも多くの人々が訪れて賑わいました。また、与謝蕪村をはじめとする文人が逗留し、地域の人々との交流の中から数多くの作品が生まれました。近代になると、天橋立の公園化や道路・鉄道など交通網の発達によって近代観光地へと発展しました。小室洗心や地元の文化人・郷土史家らとの交流を通して、与謝野寛・晶子夫妻をはじめとする多くの文人墨客がこの地を訪れ、新たな作品を残しています。

本展示では、近世から近代の「旅」をテーマに、紀行文や絵画、旅案内などを通して、旅人たちが見つめた宮津・天橋立の姿を紹介します。

関連事業

「スイス絵画の異才 カール・ヴァルザー展」 宮津サテライトパネル展

東京ステーションギャラリー、大阪中之島美術館で展示されたヴァルザーの作品や、その生涯、宮津での足跡をパネルで紹介。

会 期 9月5日（土）～9月27日（日）
午前10時から午後8時まで
（月曜日は午後5時まで）

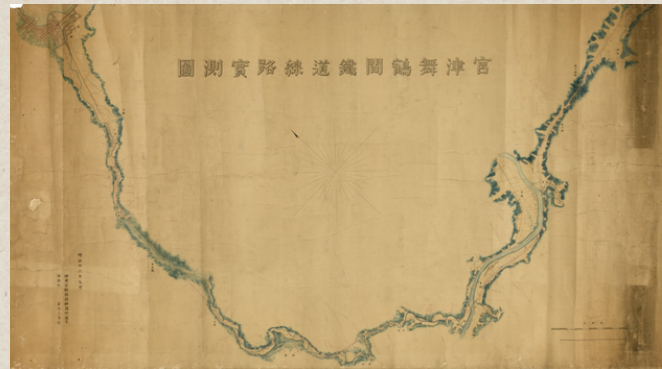
会 場 浜町ギャラリー
（宮津阪急ビル〈ミップル〉3階）

料 金 入場無料

その他、様々なイベントを開催予定！詳しくは、特設サイト「旅と宮津」をチェック！



Ein Spaziergang in Japan（邦題：日本散策記）
〔清輝楼 蔵〕



宮津・舞鶴間鐵道路線実測図（明治26年9月）
〔宮津市教育委員会 蔵〕



扶桑名勝図（丹後国天橋立之図）
〔宮津市立図書館 蔵〕



京都丹後鉄道「宮津」駅から徒歩8分
京都縦貫自動車道「宮津天橋立IC」から車で約5分